



ご自由にお持ち帰りください。

Vol.
66



〒731-0293 広島市安佐北区可部南二丁目1-1
TEL : 082-815-5211 (代表)
<http://www.asa-hosp.city.hiroshima.jp>

副院長就任あいさつ



副院長

田中 裕之

2020年4月1日付けで、副院長を拝命しました麻酔科の田中裕之と申します。当院には2006年4月に広島大学病院から赴任しましたので、15年目になります。2年後に開院する新病院（広島市北部医療センター安佐市民病院）に向けての重要な時期になりますので、地域に根ざしたよい病院になるよう邁進する覚悟です。

私は中学までは県北の庄原市で育ち、広島市内の高校に進学しました。当時は中国道もなく、バスが芸備線で片道2～3時間はかかっていました。54号線も旧道でした。今では高速道路を使用すると、1時間程度で当院にアクセスできます。大学時代はスキー部に所属し、安芸太田町のスキー場やスキー部OBが支配人をしていた島根県の瑞穂ハイランドによく行っておりました。当院に通院されている患者さんは安佐北区の方が最も多いのですが、広島県の北部や島根県の方も多いので非常に親しみを感ずいます。

ところで、私の高校時代の恩師が2年前に当院で入院治療を受けました。今日の私があるのもこの恩師のお蔭と言っても過言ではありません。彼は80歳でしたが、現役の大学の非常勤講師で、病床で講演の原稿を作っていました。高校時代と変わらない情熱に胸が熱くなりました。彼が私に語ってくれたことは、可部には歴史と文化がある。ここに市民病院ができた歴史と可部の文化を考えながら新しい病院を作れということでした。その時は何のこともよくわかりませんでした。調べてみますと、可部は江戸時代には出雲街道、石見街道の分岐点で、太田川や三篠川を使って広島城下に物資を運んでいたとあります。可部は山陰や県北と山陽を結ぶ流通の重要な中継地点であり、可部の地名の由来は漢弁、河戸（川辺）にあり、人の集まるに適したところという意味があるようです。まさに新病院と安佐医師会病院は人の集まる中心に位置し、新たな地域医療の起点となることが再確認できました。

私は診療統括部に所属しており、救急医療や手術などの高度急性期病院の中心となる部門に関わっています。専門は麻酔（心臓、小児）とペインクリニックです。手術件数は毎年3～5%増加し、昨年度は6,174件、そのうち麻酔科管理は4,207件でした。最近では高齢、いろいろな合併症のある患者さんの手術が増えてきています。1日の大半は手術室で過ごしておりますが、週1回午前中に緩和ケア内科で痛みの治療を行っています。患者さんが安心して痛みなく手術が受けられ、社会復帰できるようにお手伝いします。どうぞよろしくお願い申し上げます。



特集記事

- ★ダ・ヴィンチ手術について
- ★かかりつけの開業医は、認知症の名医
- ★こころの健康を保つコツ

安佐市民病院の理念と基本方針

理 念

- ・愛と誠の精神をもって医療を提供します。
- ・地域の基幹病院として高度の医療・ケアを行います。

基本方針

1. 患者さまの立場を尊重し、理解と納得にもとづいた医療を行います。
2. 安全な医療と快適な療養環境の提供に努めます。
3. 地域と連携し、地域医療、救急医療、トータルケアの水準の向上に努めます。
4. 最新の医療にとりくみ、医療・医学の進歩に貢献します。
5. より良い医療サービス提供のため、健全な病院運営に努めます。

副院長就任あいさつ

「まめでが～んす」が皆様のお手元に届くのは5月末と思われていますが、5月連休にパソコンにむかって原稿を書いております。新型コロナウイルス院内感染拡大防止のため体温測定や院内で一部通路の規制がされておりご迷惑をおかけしております。ご理解の程よろしくお願いたします。一刻も早く収束し、皆様の生活が普通に帰ることを祈念いたします。

2020年4月1日付けで、安佐市民病院副院長に就任しました。専門領域は消化器内科、内視鏡内科です。私は2003年4月に赴任して今年で18年目になります。この17年間は、大腸癌、胃癌、食道癌の内視鏡治療ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）に取り組んできました。ESDは外科手術と比較して大腸、胃、食道を切除することなく機能が温存でき非侵襲的で患者さんには負担のない内視鏡治療で入院期間は1週間です。自分自身、内視鏡的に切除が難しい病変でもしっかり治せる技術を磨き続け、他院で切除出来ない難しい病変に対して最後の砦になれる医師を目指してきました。

この度、私は医療情報・広報管理センターセンター長を兼務しております。センター内に医師事務作業補助者（当院では医療クラークと呼びます）育成チームが新設されましたので紹介させていただきます。医療クラークとは、医師が行う業務のうち事務的な業務をサポートする職種です。具体的にはこれまで医師が行っていた診断書などの文書作成、電子カルテの代行入力など医師の指示のもと、医師に代わって事務作業を行ってもらっています。新聞、テレビなどで報道されている医師の業務負担軽減につながっており、医療クラークは必須であります。私自身も外来準備、紹介元の先生への返事、内視鏡写真のプリントアウト、診断書作成など、内視鏡センターでは看護記録の代行入力、データ入力など医師の指示のもとたくさんの仕事をしてもらっています。そのお陰でこれまで診断書作成に時間がかかっておりましたが、現在は2週間以内に患者さんのお手元に届くようになりました。また、医師の外来業務も軽減し、患者さんには外来待ち時間の短縮につながっていると思われれます。今後は、医療クラークのキャリアアップに取り組んでいきたいと思ひます。

最後にになりますが、患者さんに満足頂ける医療の提供に職員全員一丸となって努めて参ります。どうか今後とも、安佐市民病院をよろしくお願いたします。



副院長
永田 信二



副院長・看護部長就任あいさつ

三十年を経て

今年の4月に副院長を拝命いたしました。1986年に安佐市民病院に配属されてから30年が経ちます。この間、自分自身を成長させるとともに学生指導の経験から看護師さんを育てたいという思いで、1年間看護研修学校で学び、看護教員の免許を取得しました。

その後、5年間は看護専門学校で教員として看護教育に携り、約600人の看護学生の巣立ちを見とどけることが出来ました。この経験は教育現場や様々な施設の状況を知る良い機会となったことと、また安佐市民病院と比較し、至らない面や、検討すべきこと、逆に当院の良いところなどを気づかせていただきました。

チーム医療と看護

安佐市民病院は地域に根差した基幹病院で、地域医療、救急医療、がん拠点病院として、高度な医療を提供する使命を担っています。また、従来の病院完結型から医療とケアと生活が一体化した地域完結型の体制へ転換が図られています。地域との連携を図り、病気になっても住み慣れた地域で自分らしい生活ができるよう、患者さんにかかわる医師、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師、歯科衛生士、栄養士、医療ソーシャルワーカーなどすべての職種とのつながりを重視し、各領域で

の専門性をもった看護師がチーム医療の一員としてかかわっています。一日も早い回復を支援し療養環境を整え、退院後も安心して地域での療養継続ができるように取り組んでいます。

看護で大切なこと

看護職が、看護専門職として、患者さん一人一人の思いやニーズを把握し看護を実践するためには、知識・技術・態度の習得とともに、その人の生きる力・回復する力を引き出す豊かな感性を磨くことも大切と思ひます。患者さんの病気を見る医療の視点だけでなく、生きていく営みである生活の視点をもって人を見ていくチカラが大切と思ひます。

最後に

新型コロナウイルスの感染症拡大予防の取組みや、2022年の新病院開設に向けての取組みなど、様々な局面や課題が生まれてきます。

安佐市民病院が今後とも発展し続けていくために、職員一同、力を合わせて、努力してまいります。



副院長・看護部長
松原 朱美



ダ・ヴィンチ手術について

外科部長 徳本 憲昭



ダ・ヴィンチ手術とは、アメリカのインテュイティブ・サージカル社が開発した手術支援用ロボット「ダ・ヴィンチ」を用いた手術のことで、ロボット手術とも言われます。

日本では、2012年泌尿器科領域で前立腺がんに対し保険診療が始まりました。胃がんなどの消化器がんに対しては、2018年4月に保険診療が認められるようになりました。導入にはロボット手術認定医を育成する必要があり、シミュレーターでの練習、動物でのトレーニング、教育指定病院への手術見学が義務付けられています。当院でも認定医育成を行うとともに、ロボット外科手術チームを編成、約半年の準備期間を経て、2018年10月より胃がんに対するロボット手術を導入しました。広島県内では、広島大学病院に次いで2番目の導入でした。手術費用が病院負担となる10例を無事終了、認定施設となり2019年5月より保険診療として胃がんに対するロボット手術を行っております。現在30例の胃がんロボット手術を行い、症例数

では広島大学を抜き、広島県内トップの実績を誇っています。

ロボット手術とは、医師の代わりにロボットが手術を執刀するのではなく、内視鏡カメラや手術器具をロボットのアームに装着して行う腹腔鏡手術のことを言います。このアームを数メートル離れた操縦席（サージャンコンソール）で医師が操作して動かせます。



ロボット手術の長所は様々挙げられますが、特に通常腹腔鏡手術より優れていると思われる機能を示します。

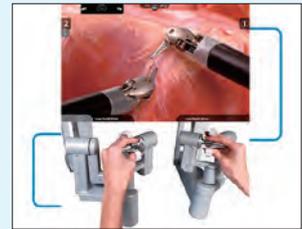
①アームの高度な多関節機能

ロボットアームには高度な多関節機能があり、医師の手元の動きがそのままアームの先端に伝えることが出来ます。アームの先端を曲げたり伸ばしたり回転させたりと、自由に動かすことが出来るため、狭いおなかの中で細かい作業を行いやすくなります。



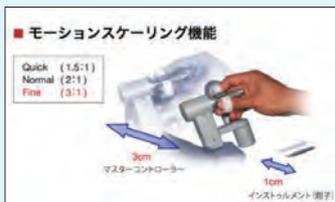
②手ぶれ防止機能

手術では非常に細かい作業を行うため、器具をもつ医師の手が震えてしまうこともありますが、ロボット手術の場合は医師の手元が震えても、手ぶれ防止機能が働きロボットアームにつけた器具は震えません。



③手の動きを縮小する機能

医師の手元の動きを縮小してアームに伝える機能もあります。例えば縮小比率を3対1に設定すると、医師が3cm動くとアームの先端は1cm動きます。そのため、繊細な作業を行いやすくなります。



④3次元立体映像の内視鏡カメラ

ロボット手術の内視鏡カメラは、フルハイビジョンの高画質で両眼視するように作られており、3次元立体画像を映し出します。おなかの中を立体的に見ることが可能となり、臓器や血管の入り組んだ様子がよくわかり、手術を行いやすくなります。



この様な多くの長所から、ロボット手術は人の手で行うよりも精密で安全性の高い手術が行え、難しい手術を行うことも可能となり、なお且つ合併症発生率が減ると考えられています。

手術費用については、保険適用されていなかった頃は患者さんあるいは医療機関が医療費を全額負担する自由診療で行われてきました。現在は、その診療実績から厚生労働省に正式に安全性を認められ保険適用となりました。高額な医療機器ではありますが、現時点では腹腔鏡手術と同じ保険点数で、ロボット手術を受けることが出来ます。

ロボット手術を希望される場合、まず担当医に相談いただき、自分がロボット手術の対象となるかを確認してください。胃がんに対するロボット手術を行っている広島県内の医療機関は、2020年4月現在で安佐市民病院、広島大

学病院、広島市民病院の3病院のみです。3病院とも保険診療でロボット手術を行うことが可能です。安全のためには、ロボット手術を含めた様々な術式から最適な術式を選択できる医療機関で手術を受けることが重要と思います。患者さんは、主治医から自分が受けられる手術の長所や短所などについて、十分説明を受けた上で選択することが大切ではないかと考えています。

当院は『患者さんやご家族の笑顔のために』をモットーに、より低侵襲で安全性の高い手術を目指し日々研鑽に努めています。また思いやりを持って患者さんに接することを心がけ、親切・丁寧な分かりやすい言葉で情報を提供します。セカンドオピニオンも広く受け付けていますので、何かお悩み事がありましたらぜひご相談ください。

かかりつけの開業医は、認知症の名医

認知症という言葉が最近よく新聞やテレビで目にしますが、ご家族の「もの忘れ」が気になることはありませんか？ さっき聞いたことをすぐに忘れて、何回も同じことを聞き返す。しょっちゅう置き忘れをする。日にちが分からなくなる。よく薬を飲み忘れる。といったことはありませんか？以前はできていた趣味、仕事、家事、お金の計算などができなくなっていますか？体調がすごく悪いとか何か特別な原因があれば別ですが、普段通り生活して元気そうなのに「もの忘れ」や気になる言動が続く場合には、初期の認知症を発症している可能性があります。

年齢を重ねるとだんだんと認知症になりやすくなり、65歳以上の15%が認知症と言われています。厚労省の調査では、わが国の認知症患者数は、現在500万人以上で、正常と認知症の間の認知症予備群（軽度認知障害）も、さら

に約500万人いると報告されています。認知症は歳のせいでは済まされない脳の病気です。正確な診断がつけば、最善の治療が可能になります。

家族が認知症かもしれないので調べてもらいたい場合には、一体誰に相談すればよいのでしょうか？答えは、いつも診てもらっているかかりつけの開業医の先生です。かかりつけの先生は自身の専門分野は違っても多くの認知症の方を毎日診療され、認知症についてよく勉強をされている名医です。もし詳しい検査が必要な場合には、かかりつけの先生から安佐市民病院や専門医療機関に紹介してもらえます。認知症も早期発見、早期治療が重要です。専門ではないだろうからと早とちりしないで、何でも困ったことがあれば迷わずに、まずは、かかりつけ医に相談しましょう。



脳神経内科主任部長
山下 拓史

こころの健康を保つ コツ



現在のコロナ禍において、私たちはさまざまなストレスを感じ、マイナスの感情も生じやすくなっています。例えば、自分も感染するかもと考えると不安や恐怖を感じますし、外出やイベントなどが自粛となって不満も感じているでしょうし、人と会えないことでさみしさも感じていると思います。こうしたマイナスの感情は免疫機能も低下させると言われており、マイナスの感情を減らしていくことが大切です。

そのためにはどうしたらよいのでしょうか？一言で言えば「プラスの感情」を増やすことです。例えば、お笑い番組を見て笑っている時や、かわいい動物を見て癒やされている時には、不安やさみしさなどのマイナスの感情は一時的

にでも消えているはずですが、人はプラスとマイナスの感情を同時に感じることはできないという法則があり、プラスの感情を増やすことでマイナスの感情を減らすことができます。専門的には「逆制止」と言いますが、この法則を活用することがポイントです。

一番のおすすめはやはり「笑う」ことです。笑いが免疫力を高めるという報告はたくさん出ていますし、何より気分が楽しくなりますよね。私も仕事でマイナスの感情にふれる機会が多いのですが、仕事が終わった後はお笑い番組を見て笑うことを日課にしています。その他にも、癒やされる写真や動画（風景やイケメンでも可!）を見るとか、お風呂にゆっくり入るとか、何もせずボーッとするとかでも大丈夫です。楽しいとか、癒やされるとか、ホッとできる時間を増やすことで、こころとからだの免疫力を高めていきましょう!



臨床心理士・公認心理師
岡野 浩二

安佐市民病院の建替えの近況報告(その5)

安佐市民病院整備室長 中 泰弘

安佐市民病院の建替えに関する工事は、昨年6月15日に施工者による起工式が執り行われ、1年余りが経過しました。幸いにも、天候により工事に遅れがでることもなく、また、心配された新型コロナウイルスによる工事への影響に関しても、対策をしっかり行いながら、影響がないよう順調に工事を進めています。

新病院の工事は、これまで、主に地下駐車場となる地下の工事を行ってきました。4月末までに地震に対応するための免震装置の設置を終え、現在は、免震装置の上に地階の鉄骨の柱や梁を据え付けたり、1階の床を作る工事を行っているところです。

当面この工事が続いていきますが、8月の中旬になると1階の鉄骨の柱や梁などを組み立てる工事に取り掛かり

ます。1階の鉄骨が立ち上がると、ようやく皆様が建物の輪郭を予想することができる構築物が現れてきます。

現在も工事現場では、高さ約30～50メートルの大きなクレーンが3本そびえ立ち、建物の高さや大きさを予感させていますが、実際に柱が立ち、建物の輪郭を予想することができるようになるまでもう少しお待ちください。

新病院は、2022年春の開業を目指しています。広島市の北部地域、広島県の北西部地域等の高度・先進医療を担う病院として、皆様のご期待に応えられるよう、これからも、病院スタッフが一丸となって準備作業を進めてまいります。

安佐市民病院の建替えの状況については、これからも随時、掲載させていただきます。

》 連携医療機関のご紹介

日頃より大変お世話になっている地域の先生方をご紹介します。

岡野皮膚科クリニック



院長 岡野 伸二 先生



クリニックビル外観
(2階岡野皮膚科クリニック)

〒731-0221
広島市安佐北区可部5丁目14-16
TEL (082) 810-0266

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:30	○	○	○	○	○	○ <small>13:00まで</small>
午後 15:00~18:00	○	○	○	△	○	△

1997年より可部中央クリニックビルで皮膚科を開業し、今年で23年目を迎えました。この地を開業場所に選んだ理由の一つには、私が1989年から1991年まで安佐市民病院皮膚科に勤務させていただいたご縁があります。安佐市民病院退職後6年間は尾道総合病院勤務となり、そろそろ開業をしようかと考えていた時、可部中央クリニックビルができるお話があり、開業を決めました。

皮膚科の医院は可部以北には数が少なく、遠方からも多くの患者さんに来ていただいています。0歳の赤ちゃんの湿疹から寝たきりのご高齢の方のとこずれまで、幅広く疾患を診させていただいてきました。多くの患者さんを診させていただくうち、おかげさまで私自身も知識の幅を広げさせていただきました。しかし私の力では及ばないこともとても多く、その時安佐市民病院が近くにあることは本当に助かっています。いつも緊急であっても快く紹介を受けていただき、時には皮膚科以外の先生に紹介させていただくことがあります。その折もとても丁寧なご返事をいただき、先生方には本当に感謝しております。

今後も地域の方々には信頼していただける医療を心がけていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

大本内科医院



院長 大本 崇 先生



医院外観

〒731-0154
広島市安佐南区上安2-4-36
TEL (082) 878-8105 FAX (082) 878-8070

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 8:30~12:00	○	○	○	○	○	○
午後 15:00~18:30	○	○	○	△	○	○

※ただし、土曜日午後は15:00~17:00

1987年東京医科大学医学部卒業し、その後広島大学病院麻酔科、安佐市民病院麻酔科勤務させて頂いた後、父の逝去の為1998年12月大本内科医院開設いたしました。

当院は内科全般を診療しており、適切な時期や疾患に対応して専門診療科への紹介を心がけております。また、外来診療のみならず訪問診療もおこなっております。患者さんの声に耳を傾けかゆいところに手が届く、わかりやすい丁寧な診療を心がけております。

安佐市民病院の先生方には開業医当初から大変お世話になっています。外来、検査、入院と御多忙の中いつも急患を快く受け入れて頂き大変感謝しております。また、最近導入された内科救急の急患受け入れ体制は大変すばらしいシステムと思います。これからもより近い距離で患者さんの声に耳を傾け、日々進歩する医療を取り入れる努力を続け、少しでも地域医療に貢献出来るようスタッフと共に取り組んでいきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

初期臨床研修医のご紹介

内科・総合診療科主任部長 教育研修管理委員長 臨床研修プログラム責任者 **加藤 雅也**

2004年度から新臨床研修医制度が必修化され、16年が経過しました。今年度は新臨床研修医制度17回生となる初期臨床研修医8名が当院に赴任し、広島大学病院からたすきがけ研修で赴任した2年目研修医1名と歯科研修医1名を併せると、18名の若者が当院の初期臨床研修医として皆様の診療にあたっております。いずれも元気で明るい若者ばかりです。

これまでに102名が当院で初期臨床研修を行いました。全員が初期臨床研修を修了し、25名が3年目も当院の専攻医として残留致しました。80名が広島大学医局に入局し、86名が3年目も広島県内に留まって、専門診療とともに初期臨床研修で培った総合診療能力を発揮してくれています。

3年目以後の専門診療科は内科が49名、外科15名、麻酔科9名、産婦人科8名、小児科4名のほか、心臓血管外科5名、脳神経外科2名、整形外科3名、泌尿器科2名、耳鼻咽喉科1名、放射線科4名と様々な診療科に進み、専門診療で活躍しています。

安佐市民病院ではこれからの医療を支える多くの明るく優秀な若い医師たちが皆様の診療にあたっております。どうぞよろしくお願ひいたします。



初期臨床研修医
栗本 元輝

(くりもと げんき)

4月から安佐市民病院で研修させていただきます。研修医1年目の栗本と申します。至らぬ点も多いですが、精一杯頑張りますので、ご指導のほどよろしくお願ひいたします。

初期臨床研修医
安岐 智史

(あき さとし)

広島大学から来ました。初期臨床研修1年目の安岐智史です。至らぬ点も多いですが、頑張っただけでも早く皆様のお力になれるように目指しますのでよろしくお願ひいたします。

初期臨床研修医
野村 彩華

(のむら あやか)

はじめまして、愛知医科大学出身の野村彩華と申します。可部出身で、可部の好きなおところは娯楽はないけど暮らすには便利なおところ。よろしくお願ひいたします。

初期臨床研修医
益田 耕行

(ますだ こうき)

山口大学から来ました。初期研修医1年目の益田耕行と申します。至らぬ点も多いですが、精一杯頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

初期臨床研修医
長尾 暁憲

(ながお あきのり)

4月より当院にて初期研修をさせていただきます。長尾暁憲と申します。少しでも早く皆様のお力になれるよう頑張りますので、ご指導のほどよろしくお願ひいたします。

初期臨床研修医
近藤 紗矢

(こんどう さや)

この春より当院で初期研修をしております。近藤紗矢と申します。皆様からたくさんのご指導を学ばせていただく日々になりますが、しっかり吸収し成長していきたいです！よろしくお願ひいたします。

初期臨床研修医
都留 裕梨

(つる ゆり)

4月より当院で研修させていただきます。佐賀大学出身の都留裕梨と申します。皆様のお役に立てよう頑張りますので、どうぞご指導ご鞭撻のほどお願ひ申し上げます。

初期臨床研修医
住井 悠紀

(すみい ゆうき)

4月より当院で研修させていただきます。広島大学出身の住井悠紀と申します。病院の力になれるよう頑張ります。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

初期臨床研修医2年目

川上 咲

(かわかみ さき)

4月から安佐市民病院で研修させていただきます。川上咲と申します。皆様のお力になれるよう精一杯頑張りますので、よろしくお願ひいたします。

歯科初期臨床研修医

西田 圭吾

(にしだ けいご)

広島大学を卒業し、4月より当院での研修をさせていただきます。西田圭吾と申します。少しでも地域の皆様のお力になれるよう、一生懸命頑張りますのでよろしくお願ひいたします。

患者の権利

広島市立安佐市民病院は、患者の権利に関する「リスボン宣言」を擁護し、患者の最善の利益のために安全で質の高い医療を目指します。

- 1. 良質の医療を受ける権利**
良質で適切な医療を公平に受ける権利があります。
- 2. 情報を知る権利**
ご自身の病状や治療等に関して十分な説明と情報を得る権利があります。
- 3. 自己決定の権利**
ご自身の健康状態について十分な説明を受け、ご自身の自由な意思で検査や治療方法を選ぶ権利があります。患者が未成年者である場合や患者に意識がない場合などご自身で意思決定ができないときは、法定代理人(保護者、成年後見人)やご家族と相談して治療方法を決定します。その場合でもできるだけ患者ご本人の意思を尊重します。
- 4. 選択の自由の権利**
病院あるいは保健サービス施設等を自由に選択し、変更する権利があります。セカンド・オピニオン(別の医師の意見)を求める権利があります。

- 5. 健康教育を受ける権利**
健康的なライフスタイルや、疾病の予防および早期発見等に関する情報を与えられた上で自己選択(インフォームド・チョイス)できる権利があります。
- 6. 個人情報・プライバシーが守られる権利**
医療従事者が医療上知り得た個人情報は保護され、プライバシーが守られる権利があります。
- 7. 尊厳が守られる権利**
個人として尊重され、尊厳を保ち安楽に終末期を迎えるためのあらゆる可能な支援を受ける権利があります。

お願ひ

当院で安全で質の高い医療・看護が適切に受けられるためご協力をお願いします。

- ・ご自身の健康に関する情報をできる限り正確に伝え、医療従事者と共同して診療に参加してください。
- ・快適な療養環境の維持に協力をお願いします。
- ・医療安全の実践に協力をお願いします。
- ・病院の規則を守ってください。
- ・他の患者の療養に支障を与えないように配慮をお願いします。
- ・医療人の育成に協力をお願いします。
- ・現在考えられる安全な臨床医学の範囲を超える要求には応じられないことをご承知ください。